

あ、カーテン、

今日も開いたね。

見てるだけ。それも確かな地域の力

毎朝6時。安武町で暮らす浦田さんが決まって、半分だけ“カーテンを開けるのは、今日も何事もないというサイン。
襟が擦り切れるほど愛用しているチェック模様のはんてんは、浦田さんのトレードマーク。
遠くからでもすぐに「浦田さんだ」と分かります。
一人暮らしの浦田さんを支えるのは、周りの人が向ける温かな意識です。

“気に掛ける”が増えると“安心”が増える

ひきこもり、ホームレス、ダブルケア、8050 問題。生きづらさを抱える人が増える昨今。苦しいときに手が届くような、誰もが安心して暮らせる社会であるためには何が必要なのでしょう。

大切なことは「多くの人が地域や人と関わること」だと言われています。自治会活動やPTA、サロンなどへの参加、市民活動など関わり方は様々。中でも一番簡単な方法は“身近な人を気に掛ける”ことです。

浦田さんが朝カーテンを開けないとき、思いがけない場所ではんてん姿の浦田さんを見たとき、それを気にする人が居ます。隣の人を、知り合いを、ただ気に掛ける。見えない支え手がたくさんの街だったら安心じゃないですか。

見守りは確かな地域との関わりです。

令和3年4月
市内の企業
(約6,200事業所)
に配布予定